



2017年7月13日

アトピー性皮膚炎の身体的・精神的負担と 医師とのコミュニケーションに関する患者調査結果を発表

－「診察室で医師または自分が話している時間」は3分以下が**54.7%**、
皮膚症状以外ストレスなど精神的な悩みは4人に1人が「まったく伝えていない」と回答－

サノフィ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:ジャック・ナトン、以下「サノフィ」)は、このたび、スペシャルティケア部門であるサノフィジェンザイムが、アトピー性皮膚炎の患者さんの治療や受診に関する傾向について理解を深めることを目的として、アトピー性皮膚炎の患者さん 1 万 300 名を対象に患者さんの自己意識調査を実施しました。

調査の結果、アトピー性皮膚炎の患者さんは、かゆみや湿疹など皮膚症状だけではなく、それら症状に付随して起こる不眠やストレスといった日常生活や社会生活に大きな影響を与える悩みを多く抱えている一方で、多くの患者さんが、そのような悩みは「医師に話しても解決できる内容ではない」、「忙しい先生に申し訳ない」と考え、医師には伝えていないことが明らかになりました。

主な調査結果は以下の通りです。

- 「症状の改善効果」の満足度は53.8%、「医師とのコミュニケーション」の満足度は39.7%**
 - アトピー性皮膚炎の治療に対する満足度について、「症状の改善効果」について**53.8%**が満足(とても満足、満足、やや満足)と回答する一方で、「医師とのコミュニケーション」については、**39.7%**が満足(とても満足、満足、やや満足)と回答。
- 「診察室で医師または自分が話している時間」は3分以下が54.7%**
 - 「診察室で医師または自分が話している時間」は、平均**4.2分**だった。
 - 54.7%**は3分以下、**31.3%**は2分以下の時間しか話ができていると回答。
- 「日常生活で困っている事がないか確認してくれる」医師は16.5%**
 - 医師が「日常生活上のアドバイスをしてくれる」と回答した患者さんは**32.5%**であったが、「日常生活で困っている事がないか確認してくれる」と回答した患者さんは**16.5%**に留まった。
- 4人に1人のアトピー性皮膚炎の患者さんは、「症状による精神的な悩み」を医師に伝えられてない**
 - 「症状による精神的な悩み」を伝えられている割合は平均約**38%**となり、4人に1人は全く伝えていないと回答。
 - 「いつ症状が出るかわからないのでビクビクする」、「アトピー性皮膚炎が完治しないことへの不安がある」、「見た目が気になる」といった症状に関連する点は比較的伝えられているものの、「人と接するのがおっくうになる」、「自分に自信が持てない」、「恋愛や結婚が出来ないことへの不安」といった悩みはあまり伝えられていないことが明らかになった。

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー
www.sanofi.co.jp



- ・ なぜ、患者さんは症状に付随して起こる「悩み」を医師に伝えていないのか？という質問では、殆どの患者さんが「医師に話すほどのことでもない」、「医師に話したところで解決しない」、「医師が忙しいそうにしているので、時間を取ってもらうのは申し訳ないと思う」と回答。

本調査では、アトピー性皮膚炎治療における、医師－患者間コミュニケーションの改善が治療継続のモチベーションを上げ、治療の満足度向上に寄与することが示唆されています。

サノフィジェンザイムは、アトピー性皮膚炎患者さんのQOL向上に取り組むため、アレルギーに関する情報サイト「[アレルギー](#)」において、疾患の知識や、患者さんが医師とのコミュニケーションを円滑に進めるために活用いただける「そらいろレタープロジェクト」などを展開しています。

以上

サノフィについて

サノフィは、グローバルヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした医療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。5つのグローバルビジネスユニット(糖尿病および循環器、ジェネラルメディスンおよび新興市場、サノフィジェンザイム、サノフィパスツール、コンシューマー・ヘルスケア)で組織され、パリ(EURONEXT:[SAN](#))およびニューヨーク(NYSE:[SNY](#))に上場しています。日本においては、「日本の健康と笑顔に貢献し、最も信頼されるヘルスケアリーダーになる」というビジョンの実現に向けて、患者中心志向に基づき、医薬品等の開発・製造・販売を行っています。詳細は <http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。

別紙:アトピー性皮膚炎に関する患者意識調査



<別紙>

【アトピー性皮膚炎に関する患者意識調査】

概要

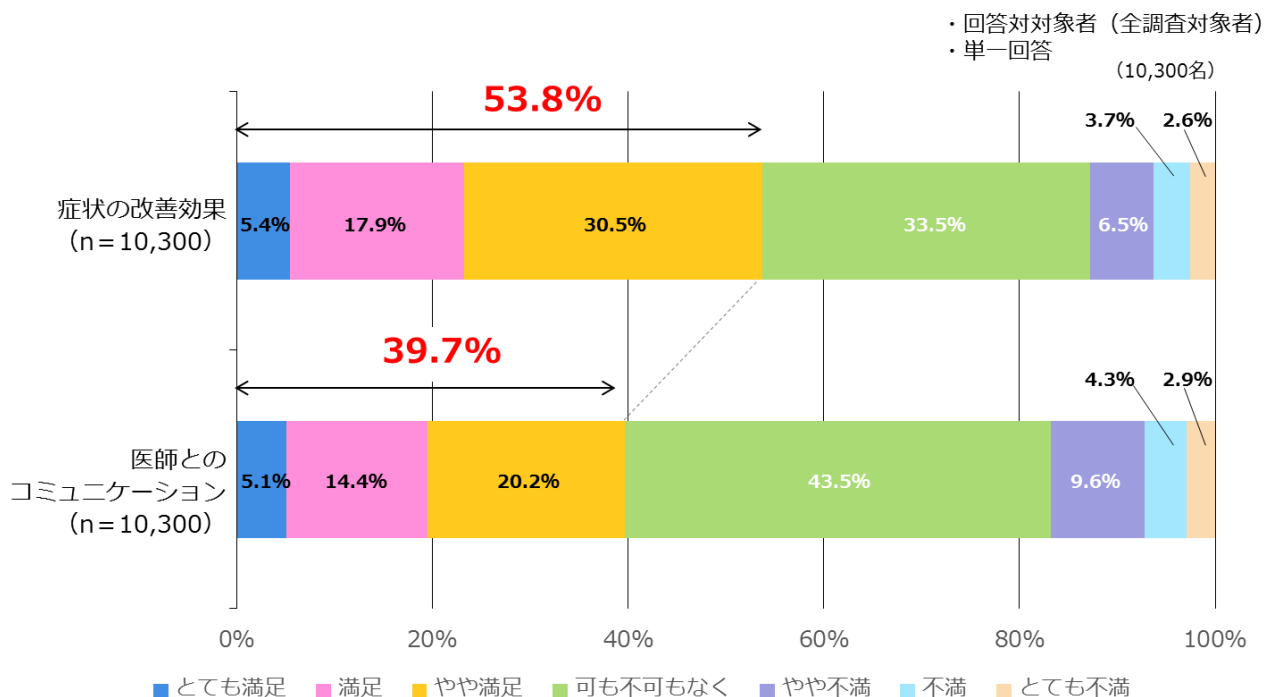
実施時期	2016年5月26日(木)～6月2日(木)
調査方法	インターネット調査
調査対象	15～69歳の男女(地域:日本全国) - アトピー性皮膚炎発症者(過去発症者を含む) - 症状の範囲:アトピー性皮膚炎の皮膚症状の広さが手のひら1枚以上にある人 - ステロイド外用薬またはタクロリムス軟膏の使用経験がある人 (現在使用かは不問) - 医療機関に通院経験がない人は除外
有効回答数	10,300名
調査委託先	株式会社マクロミルケアネット / 株式会社マクロミル

調査結果

1. 「症状の改善効果」の満足度は**53.8%**、「医師とのコミュニケーション」の満足度は**39.7%**

- ・ アトピー性皮膚炎の治療に対する満足度について、「症状の改善効果」について**53.8%**が満足(とても満足、満足、やや満足)と回答する一方で、「医師とのコミュニケーション」については、**39.7%**が満足(とても満足、満足、やや満足)と回答。

Q. あなたのアトピー性皮膚炎治療に対する満足度についてあてはまるものをお答えください。



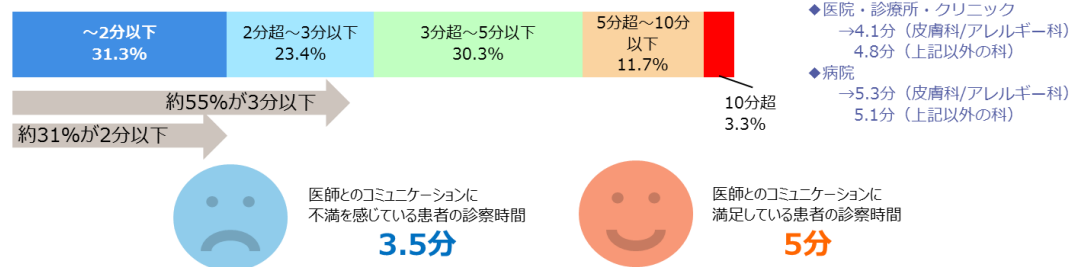


2. 「診察室で医師または自分が話している時間」は3分以下が54.7%

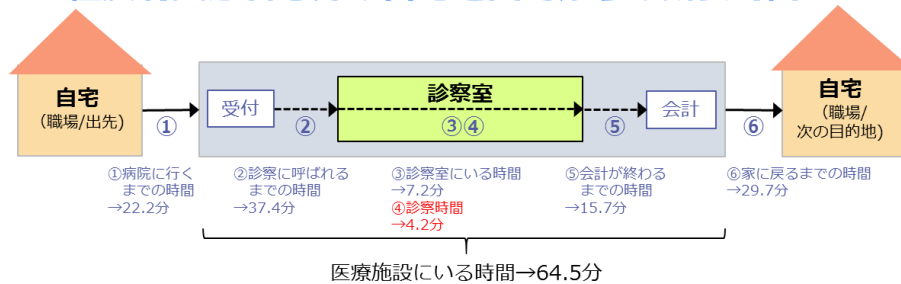
- ・ 「診察室で医師または自分が話している時間」は平均4.2分で、31.3%は2分以下の時間しか話ができていると回答。
- ・ 医療施設での滞在時間は64.5分で、うち受付から診察に呼ばれるまでにかかる時間は37.4分、会計が終わるまでにかかる時間が15.7分であるのに対し、診察室にいる時間は7.2分、うち診察室で医師または自分が話している時間は平均4.2分であり、医療施設滞在時間全体のわずか6.5%にすぎないことが明らかとなった。

Q.医療機関での診療時間や自宅を出てからの所要時間はどのくらいですか。

アトピー性皮膚炎患者の診察時間：4.2分



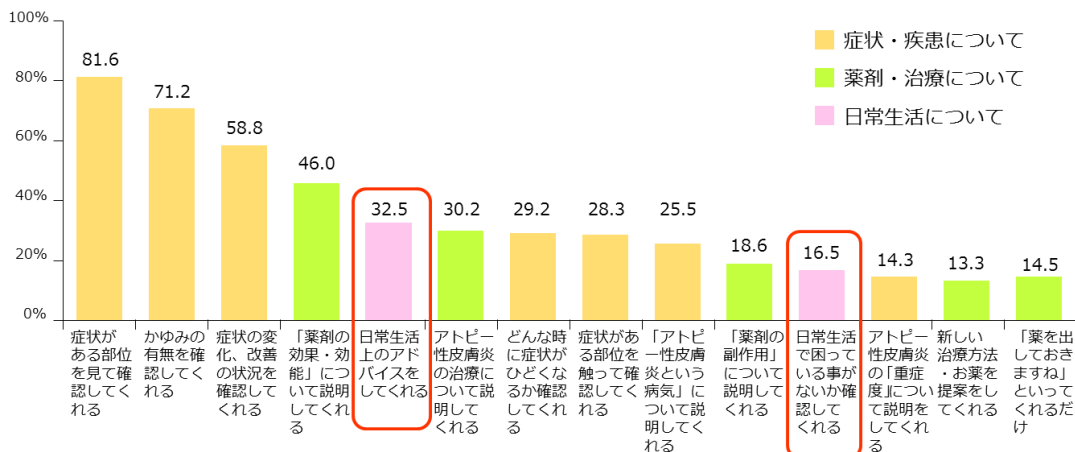
アトピー性皮膚炎患者さんの自宅を出てからの所要時間：116.4分



3. 「日常生活で困っている事がないか確認してくれる」医師は16.5%

- ・ 医師が「日常生活上のアドバイスをしてくれる」と回答した患者は32.5%であったが、「日常生活で困っている事がないか確認してくれる」と回答した患者は16.5%。

Q. 診療時に医師が確認、説明をしてくれる内容についてお答えください。



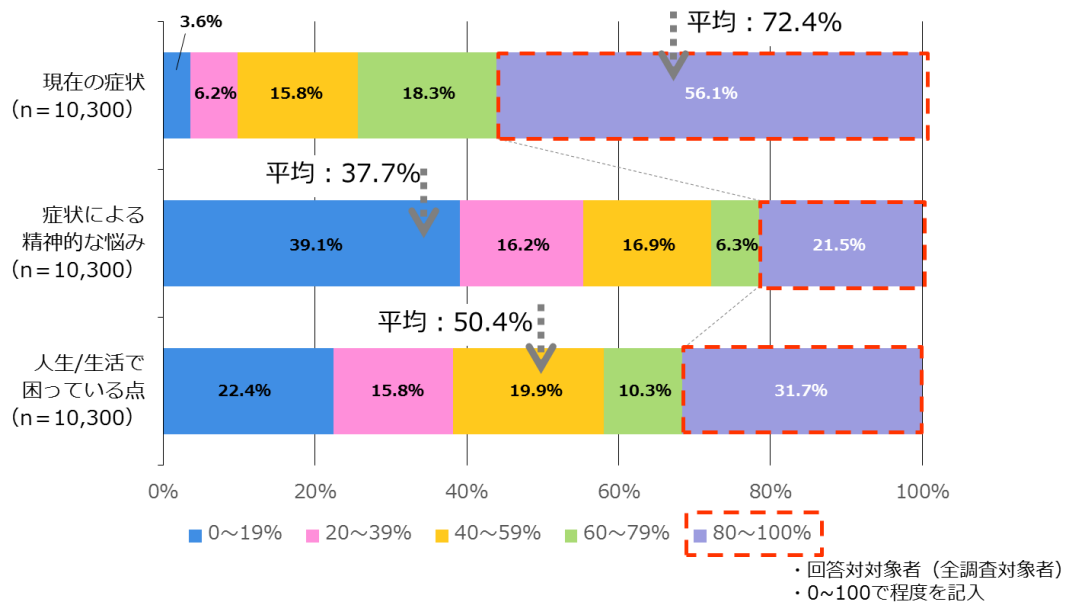
・ 回答対象者（全調査対象者）
・ 0~100で程度を記入



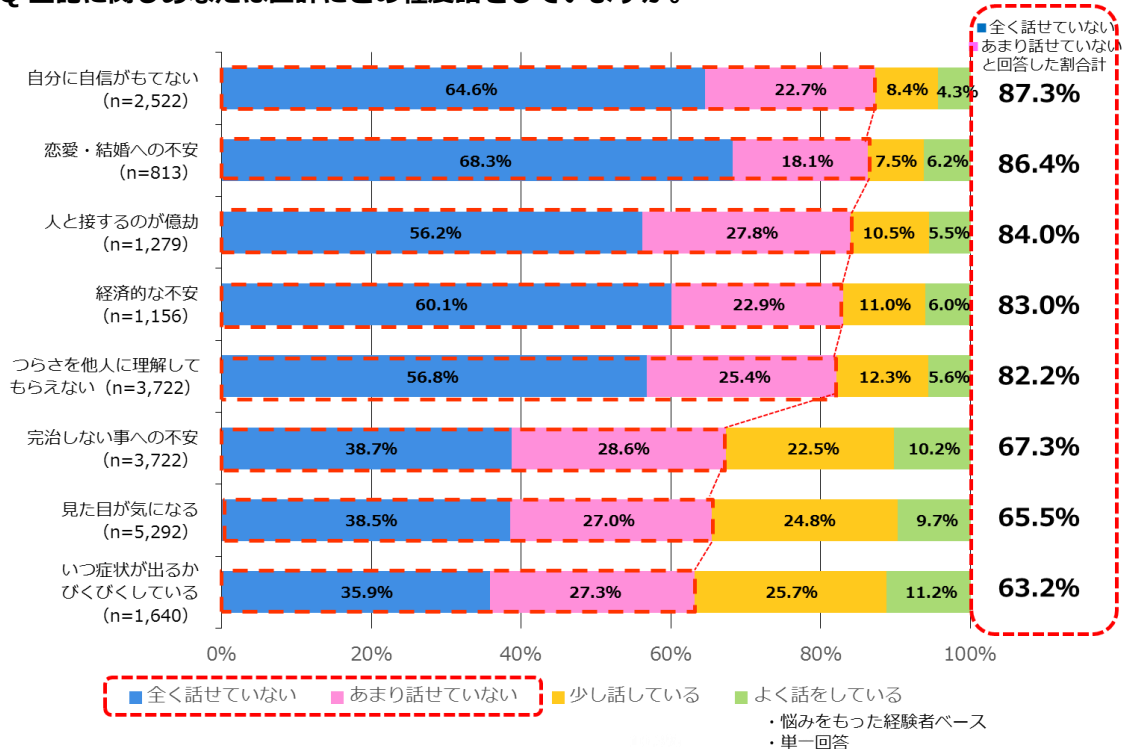
4. 4人に1人のアトピー性皮膚炎の患者さんは、「症状による精神的な悩み」を医師に伝えられてない
- 「症状による精神的な悩み」を伝えられている割合は平均38%となり、4人に1人は全く伝えていないと回答。患者から医師に伝えられてない「症状による精神的な悩み」では、いつ症状が出るかわからないのでビクビクする、「アトピー性皮膚炎が完治しないことへの不安がある」、「見た目が気になる」といった症状に関連する点は比較的伝えられているものの、「人と接するのがおっくうになる」、「自分に自信が持てない」、「恋愛や結婚が出来ないことへの不安」、「他人にアトピー性皮膚炎の辛さや負担を理解してもらえない」などの悩みは伝えられていないことが明らかとなった。

Q. 診察の時に、あなたはどの程度、医師に伝えることができますか。

伝えたい事がきちんと伝えられている場合を100%、全く伝えられていない場合を0%とした場合の度合い (%)



Q 上記に関しあなたは医師にどの程度話をしていますか。





調査結果を受けて、専門医からのコメント

東京通信病院皮膚科部長 江藤隆史先生

「アトピー性皮膚炎の治療は、保湿剤やステロイド外用薬などを必要十分量患者さん自身に継続的に塗っていただくことが必要です。より良い治療効果をあげるには、なぜ外用薬が必要なのか、治療の方針や見通しとともに患者さんに説明し充分理解いただくことが重要であることが示されています」

九州大学医学部皮膚科学教室教授 古江増隆先生

「アトピー性皮膚炎は、一般的にみられる単なる皮膚疾患だと思われている方も多くいますが、患者さんは湿疹やかゆみのみならず、症状に付随する精神的な苦痛を抱えながら治療を長期にわたって続けられています。医師や周囲の人にこうした悩みを伝えられず、つらい思いをされている患者さんも多くいらっしゃいます。医療者だけではなく社会全体として、こうしたアトピー性皮膚炎患者さんの意識を理解し、十分なコミュニケーションをもとに適正な治療が受けられる環境が整うことを願っています」

日本医科大学千葉北総病院皮膚科部長 幸野健先生

「アトピー性皮膚炎の患者さんはアトピー性皮膚炎でない患者さんに比べ、抑うつ・不安・睡眠障害などメンタル関連の有病率が高いことがわかっています。また、アトピー性皮膚炎患者さんのPresenteeism (疾患を抱えながらの出勤。疾病就業)時の労働生産性は、アトピー性皮膚炎でない患者さんに比べて有意に障害されています。アトピー性皮膚炎を抱える患者さんは、疾患の悩み・不安のみならず、精神面への影響・負担が大きいことが明らかです。診療は限られた時間ですが、医師は其中でメンタル面のサポートも積極的に行っていく必要があります。また、社会の理解も高めていくことが重要です」